

駒形石灰加藤 5トン

Super-interior-detail

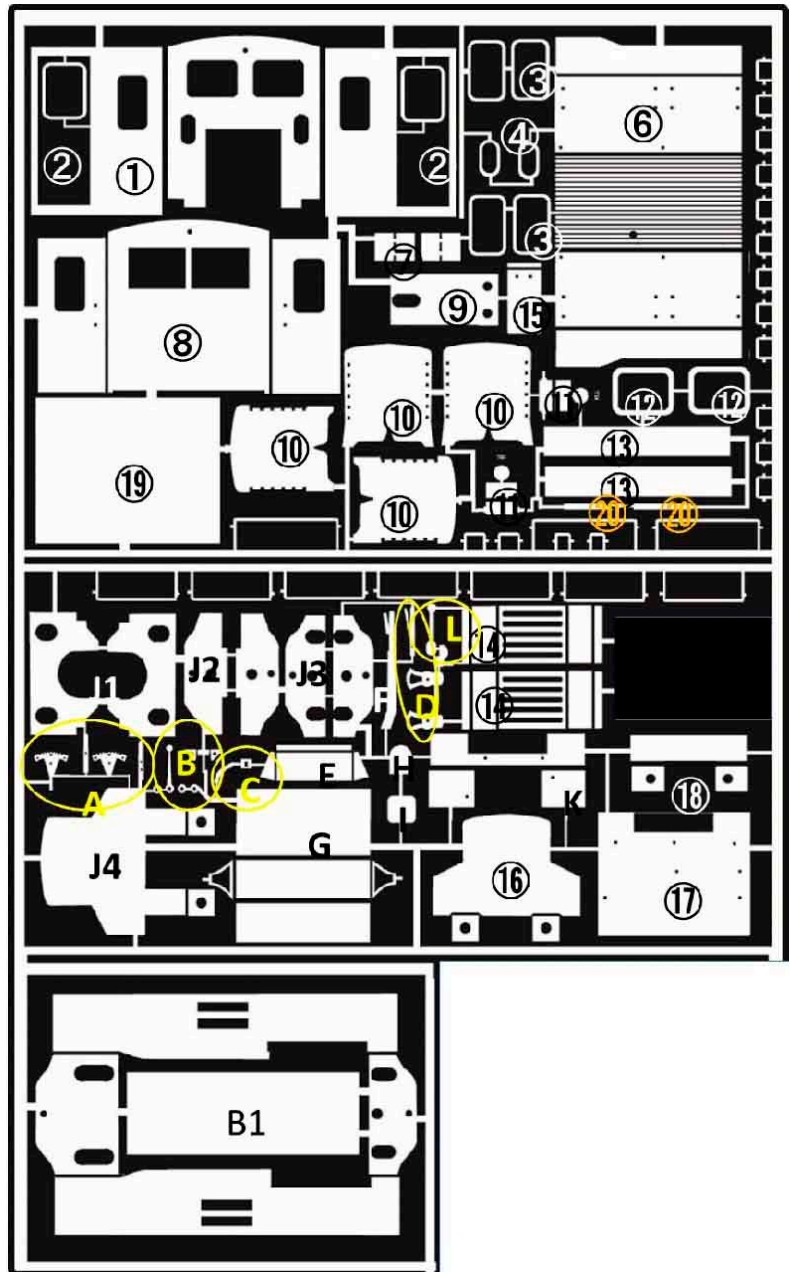
組立説明書

Sea lion 工房 iModels_C

SEK2-02

注意

- 本キットの制作には実物に対する知識が必要です。又、組み立てには高度な技術を必要とする場合があります。
- 基本金属ですので、取り扱いを誤ると思わぬ怪我をする場合があります。取り扱いにあたっては十分注意頂くとともに幼児等誤って触らぬよう御注意下さい。
- 本キットのプロトタイプは2フィート機関車です。若干軸距は異なりますが、PowerMax が十分使えますので、本キットの適合シャシといs て推奨します。HO9 についても最近、日本に輸入されましたので、これも推奨いたします。HO9 の方は若干軸距は 12mm より大きくなると思いますが、これもそれ程気にならないと思います。その他、動力化には Kato 製富山ライトレールの動力台車を使用が可能です。(動力台車のみが発売は終了し、別売りはしていないようですので、トラムを購入頂いて、台車を外して御使用下さい。自己責任にてお願いします。方法は <http://cassiopeia.55street.net/rainmodel/tlrd.htm> にあります。)実車の軸距はもう少し短いのですが、この動力台車に合わせてあります。
- 精密ディテールを強調して出すために今回は表・裏のエッチング深さを5:5 にしています。従って一般のエッチングキットより曲がりにくくなっています。
- インテリア部は強度保持のため一部ブリッジ(ランナー)は半彫りになっていないところもありますが、組み立てに影響は無いと思います。



必要であればPカッターで補助スリットを彫っておくと綺麗に曲がります。19に板内の手すり(中)を半田付けして下さい。

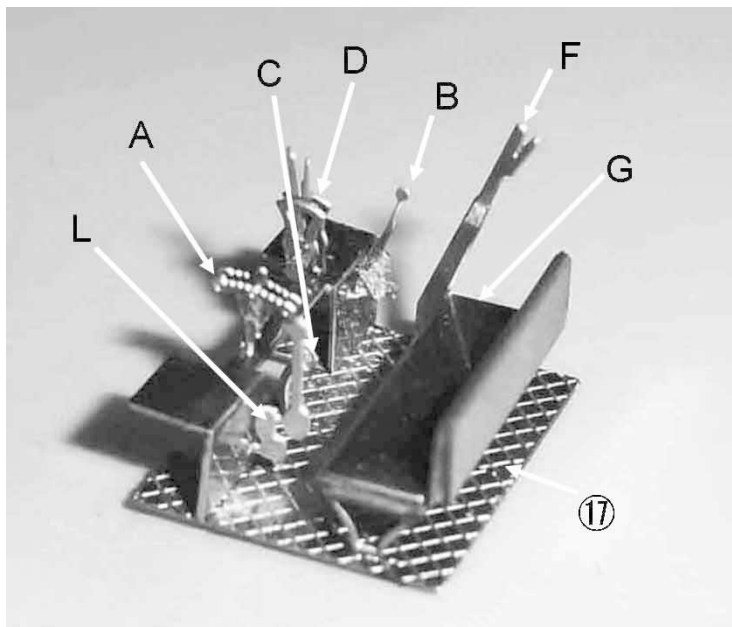
箱にします。はみ出しの無いようにします。部品 19 は屋根です。もしOナローのように開閉可能にするには、0.6mm 角線をキャブの大きさに合わせて半田付けして

その他必要な部品・工具

- Pカッター (絶対必要)
- 精密バイス (絶対必要)
- ポリエステルパテ、又はエポキシパテ(微妙な曲げの差異で隙間が生じたときに充填しておけば、綺麗に仕上がります)
- エンジン(同梱されています。世附か東大のどちらかにお使い下さい)
- 真鍮パイプ 厚さ0.3mm, 0.8~1mm
- M1.4 タップ, M1.4×2mm ネジ, ×3mm ネジ (小ナベ) 他

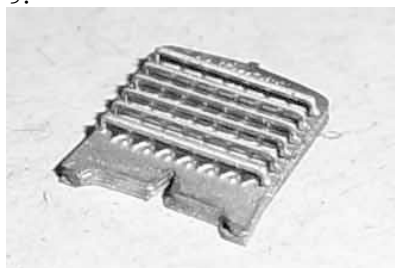
組み立て手順

- ボディ組み立て
 - 今回も非常に高価で繊細な精密工業用エッチング板です。細心の注意でパーツを切り離します。
 - キャブ基本部品は、部品 1.8.19 です。



おきます。

- 部品 16 と 6 で、フードを成形します。半彫りの中心から離れたサイド2箇所は曲げになりますので、P カッターで補助スリットを彫っておくと綺麗に曲がります。中央部は必ず真鍮丸棒をガイドにして滑らかな曲線になるようにして下さい。
- 若干の隙間が 16 との間に生じますが、半田で埋めます。ここがキーポイントですので、注意深くお願いします。16 には M1.4 のタップを立てておきます。
- ラジエータは、部品 10 を積層します。一番上にラジエータパターンの半鳩のものを使い、両方に穴のあいた部品を下にし、後の2枚をサイドイッチ状にします。横に部品 20 を覆うのも忘れずにおきます。一番下にし、半田を横からすりつけます。後は余分な半田を鑷等で綺麗に取り除いて下さい。
- 面倒ですが、ラジエータの穴を 0.3mm ドリルでさらって、周囲の手すりを歪まないようにし、ラジエタグリルを作ります。



- 部品 12 は前窓の棧になります。部品 4 は前ののぞき窓のHゴムです。部品 2 は前窓のHゴム、部品 3 は横の窓のHゴムになります。これらは塗装後に接着するとメリハリが出ます。
- 部品 18 はキャブの取り付け板ですが、キャブ真ん中、面一になるように、慎重に半田付けします。M1.4 タップを立てておきます。
- 部品 7 は、砂箱の蓋です。重ねて半田付けして下さい。
- 部品 15 はボンネット上面の点検蓋です。予め手すり(小)を半田付けし、余分なところをやすっておきます。加藤の標準位置に取り付けます。(web 等で実車の写真が公開されていますので、御参照下さい)。
- エキゾーストパイプは真鍮パイプから造ります。内径 0.8mm、外径 1mm くらいのものがお勧めです。なおこれには、サイレンサーのようなものが付いていますので、内径 1mm、厚さ 0.5mm の短めで厚めのパイプを覆うように挿入します。
- ラジエータをボンネットに取り付けますが、上面に合わせるようにして下さい。

2. 主台枠組み立て

- ロスト台枠裏の凸部をやすって平面を出しておきます。Brass なので、考えるより作業はすぐに出ます。



- B1 が基礎板です。ここにロストを 40W 以上の鑷で半田付けします。
- 部品 11 が中間動輪です。これの半田付けは熱容量の差で若干困難なので、接着剤でもいいと思います。
- 前後ビーム 14 を取り付けます。上面で面一になるようにします。



- 上周りとの整合を好く見ておきます。
 - J1~J4 は旧工社のシャシ用の整合部品です。若しシャシのみお持ちの方はお使いいただくのもいいかも知れませんが、細かいシャシの調整は必要かもしれないので、その点のみ御注意下さい。
3. インテリアの組み立て
- このキットの見せ場でもありながら、組み立ての細かい部分です。どうか諦めずにお願います。この点からも、バックアップのキットがあると安心です。
 - 写真と部品図を参照して組み立てます。基本的にレバー類は 0.3mm ドリルでさらい、コントロールレバーを両側から挟むように半田付けしていきます。
 - 一番部品を紛失しやすいのは B のレバーです。0.3mm ではきつきつなので、0.2mm か 0.25mm のリン青銅線を使った方が楽なのかも知れませんが、中央レバーとワッシャー対パーツを屏風折り成形し、両側が三角の台に挟み込みますが、これがなかなか大変です。片方は半田付けし、もう片方は直角に曲げてコンソール部品 K の穴に差込半田付けします。
 - 部品 G は座席です。先ず脚を谷折りに曲げ、その後、背もたれを谷折りに曲げます。ソファは山折りにします。これが出来れば、K に半田付けし、固定します。
 - F は少し大きすぎるかも知れませんが、適当に切ってお使い下さい。
 - 部品 H, J は、インテリア内のメーカー銘板です。このままでは不要なのですが、精密さを追求されるならお使い下さい。H はコンソール垂直面、J はコンソールの上面に付けます。
 - 写真のように完成しましたら、塗装等全部の主要作業が終わってから、全部キャブに落とし込みます。窓ガラス等は最後に接着します。
 - 部品 9 が、動力ユニット PowerMAX 用の取り付け板です。ゼナーダイオードを外し、押さえ板も外します。1V 程度でも走りますので、電圧の掛けすぎにくれぐれも注意を。

E 板の替えの部品は用意しておりませんので、十分に慎重に作業を進めて下さい。

製作 Sea lion 工房
販売 ナローガレージ